

生物農薬を用いたアワノメイガ防除

【1 成果概要】

アワノメイガの孵化を確認後、トアロー水和剤 CT 1000 倍を7日間隔で2回散布することによりアワノメイガの被害を防ぐことができます。



図1 アワノメイガの卵塊（葉裏）

卵は白濁色、扁平、楕円形で魚鱗状に重なり合った卵塊です。葉の裏に産卵されます。

m²あたりの産卵数には差がないので観察用として圃場脇数ヶ所に薄播きをしてください。

表1 m²あたりの産卵数

播種期	5月15日				5月25日				6月5日			
播種量 (g/a)	10	20	40	60	10	20	40	60	10	20	40	60
卵塊数 ¹	11.4	9.1	8.7	9.0	6.9	9.2	7.2	5.4	4.2	4.6	3.8	2.1
(数/m ²)	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a

表中のアルファベットは5%水準で有意差がないことを示す

産卵から孵化までは約5～10日です。孵化後2～3日は葉裏などにいます。

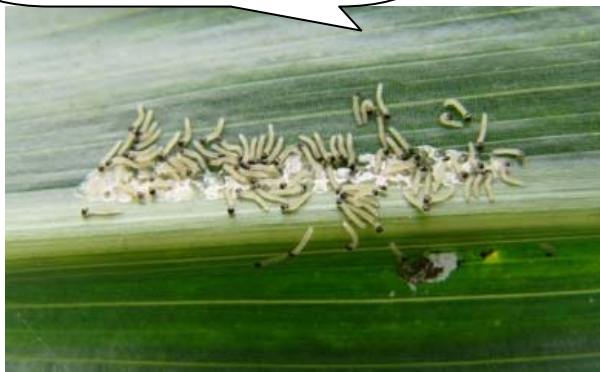


図2 孵化直後のアワノメイガ若齢幼虫

産卵や孵化は気象により多少前後することが考えられます。6月中旬から観察を行いましょう。

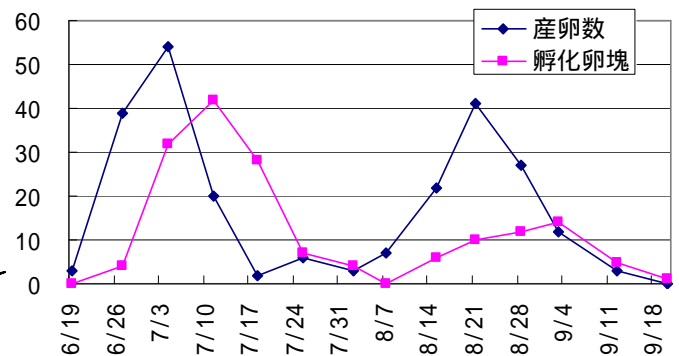


図3 アワノメイガの産卵および孵化消長(H19:軽米町)

【2 留意事項】

- (1) 本剤は、浸透移行性がないのでアワノメイガが植物茎内に侵入してしまってからでは効果が望めません。適期に散布してください。
- (2) 生物農薬ですので有機農産物の生産に利用することが可能です。
- (3) 農薬使用基準は、収穫前日まで4回以内となっておりますが、使用の際には必ずラベルの表示にしたがってください。